

令和2年度 学校運営連絡協議会報告書

1 組織

(1) 東京都立田園調布高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 総務部主任（事務局長） 総務部員（3名） 計4名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任・進路指導部主任・総務部主任・1学年主任・3学年主任）、主任教諭（生活指導部主任・2学年主任） 計10名

(4) 協議委員の構成

近隣警察署職員、近隣消防署職員、学識経験者、PTA役員、近隣小学校長、近隣中学校長、近隣特別出張所長、近隣自治会長、近隣消防団長、本校同窓会会長 計11名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1回～2回）の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回

日時：令和2年10月9日（金） 場所：本校視聴覚室、出席者：内部委員10名、協議委員7名

内容：校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介、主旨説明、内部委員紹介、本校の現状と課題について説明、評価委員選出、意見交換、事務連絡

第2回

日時：令和3年2月12日（金） 書面開催

内容：校長挨拶、活動報告、学校評価アンケートへ結果について、意見交換、事務連絡

(2) 学校評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回

日時：令和2年10月9日（金） 場所：本校校長室 出席者：3名

内容：学校評価アンケート案について

第2回

日時：令和3年2月12日（金） 書面開催

内容：学校評価アンケート結果について

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

- ・本校の学校経営計画に基づく教育活動に対する満足度、理解度および情報発信の結果について把握する。
- ・生徒、保護者、教員に対する設問項目から、三者の意識の相違を通して教育活動の課題を把握する。
- ・意見欄の設定により意見を具体的に把握する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

① 実施時期 （12月下旬）

生徒全員：回収数 631名／708名 （回収率 89%）

保護者：回収数 191名／708名 （回収率 27%）

教員：回収数 25名／45名 （回収率 55%）

② 評価項目

学校経営計画の実現に向けた取り組みが明確になるように質問内容を精選した。また、本年度から学校図書館に関する項目を調査した。新型コロナ対策中を加えたアンケート項目は生徒・保護者・教員について共通とし、35項目を設定し差異等を明確にさせ、取り組むべき課題を明らかにした。25項目については、学習指導4項目、進路指導3項目、生活指導7項目、更に施設・設備及び情報公開について5項目とし、満足度について、そして感染症対策とした。更にできる限り質問の主旨が伝わるよう文言等を検討した。また、選択肢については、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「思わない」の4項目である。肯定的な意見は「そう思う」「やや

そう思う」の合わせた数とした。

(3) 評価結果の概要

① 生徒・保護者・教員の比較

設問順に生徒・保護者・教員の回答を比較する。

設問 1. 生徒・保護者・教員の種別

設問 2. 生徒・保護者の学年

設問 3. 生徒の性別

【この質問から質問 24 までは、臨時休業期間後の学校生活について回答】

<学習指導>

設問 4. 学校は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育むレベルの授業を行っている。

生徒の 82%、保護者の 71%、教員の 80% が肯定的評価をした。

設問 5. 学校は、生徒が授業内容を十分に理解するよう指導している。

生徒の 82%、保護者の 66%、教員の 92% が肯定的評価をした。

<進路指導>

設問 6. 学校は、進路学習（夏季集中型学力向上講習、予備校講習（3 年）等）の充実に努めている。

生徒の 85%、保護者の 77%、教員の 84% が肯定的評価をした。

設問 7. 学校は、進路説明会の実施等を通して、生徒が自分の進路について、主体的に考えられるよう指導している。

生徒の 87%、保護者の 78%、教員の 80% が肯定的評価をした。

設問 8. 学校は、進路指導部だよりや各種資料の提示を通して、進路情報の提供に努めている、

生徒の 87%、保護者の 70%、教員の 84% が肯定的評価をした。

<生活指導>

設問 9. 生徒は、本校の生活信条「誠実・敬愛・自主・自律」を実践している。

生徒の 80%、保護者の 79%、教員の 68% が肯定的評価をした。

設問 10. 学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている。

生徒の 96%、保護者の 95%、教員の 96% が肯定的評価をした。

設問 11. 学校は、年間 3 回の生徒アンケート実施等を通して、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。

生徒の 90%、保護者の 87%、教員 96% が肯定的評価をした。

設問 12. 部活動は充実している。

生徒の 76%、保護者の 64%、教員の 64% が肯定的評価をした。

設問 13. 教員や養護教諭、スクールカウンセラーによる悩み相談等、学校の相談機能は充実している。

生徒の 91%、保護者の 78%、教員の 92% が肯定的評価をした。

設問 14. 学校は、感染症対策下であっても、必要な非常災害時の対応について指導している。

生徒の 85%、保護者の 85%、教員の 92% が肯定的評価をした。

<教育環境、校内美化等>

設問 15. 学校の施設・設備は充実している。

生徒の 38%、保護者の 38%、教員の 12% が肯定的評価をした。

設問 16. 生徒は、校内美化に努めている。

生徒の 48%、保護者の 66%、教員の 56% が肯定的評価をした。

設問 17. 学校は計画的な仕事の進め方により、教職員の業務の効率化を図り、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を推進している。

解説：ライフ・ワーク・バランス（生活と仕事の調和）とは、東京都の方策として、「国民一人一人がやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活等においても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。」をいう。

生徒の 82%、保護者の 77%、教員の 32% が肯定的評価をした。

設問 18. 学校図書館（図書室）の蔵書・設備、来館者への支援と助言は充実している。

生徒の 93%、保護者は 73%、教員の 84% が肯定的評価をした。

<情報公開>

設問 19. 学校は、ホームページや授業公開週間を通して、教育活動の様子を保護者や地域に積極的に公開している。

生徒の 82%、保護者は 76%、教員の 84% が肯定的評価をした。

<学校満足度>

設問 20. 生徒は、本校に入学して満足している。

生徒の 84%、保護者の 88%、教員の 100% が肯定的評価をした。

設問 21. あなたの臨時休業後の学校生活は、感染症対策のための新しい日常生活として対応できている。

生徒の 87%、保護者の 86%、教員の 76% が肯定的評価をした。

設問 22. 生徒は、エンジョイ・スポーツ・プロジェクトの取組に満足している。

解説：エンジョイ・スポーツ・プロジェクトとは、専門的な知見を有する外部機関と連携して、多様なニーズに応える運動機会の提供と、健康や生活習慣をセルフプロモーションする実践を通して、豊かなスポーツライフを享受できる能力や態度を育てる事業であり、東京都のモデル事業として実施している

生徒の 84%、保護者の 62%、教員の 80% が肯定的評価をした。

<感染症対策>

設問 23. 学校は、感染症対策を十分に行っている。

生徒の 80%、保護者の 80%、教員の 92% が肯定的評価をした。

設問 24. 私は、感染症対策を十分に行っている。

生徒の 95%、保護者の 96%、教員の 100% が肯定的評価をした。

<推奨度>

設問 25. 【これは、臨時休業期間中への質問です】生徒は、臨時休業中のオンライン学習により、十分な学習ができた。

生徒の 57%、保護者の 37%、教員の 48% が肯定的評価をした。

設問 26. 【ここからは、推奨度について回答してください】田園調布高校の授業は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育むレベルの授業を実現しており、親しい人へ勧められる。

生徒の 72 名、保護者の 19 名、教員の 7 名が肯定的評価をした。

設問 27. 田園調布高校の指導は、体罰・暴言がなく、親しい人へ勧められる。

生徒の 240 名、保護者の 67 名、教員の 12 名が肯定的評価をした。

設問 28. 田園調布高校のいじめに対する指導は、早期発見・未然防止が十分であり、親しい人へ勧められる。

生徒の 181 名、保護者の 40 名、教員 10 名が肯定的評価をした。

設問 29. 田園調布高校への入学を、親しい人へ勧められる。

生徒の 135 名、保護者の 52 名、教員の 7 名が肯定的評価をした。

設問 30 以降は生徒向けアンケート。

②昨年度との比較

<学習指導>

設問 4. 学校は、生徒の進路希望実現に必要な学力を育むレベルの授業を行っている。

肯定的な意見は、生徒は 2 ポイント増加、保護者では 6 ポイント、教員は 16 ポイント減少した。

設問 5. 学校は、生徒が授業内容を十分に理解するよう指導している。

肯定的な意見は、生徒は 5 ポイント増加、保護者は 2 ポイント、教員は 8 ポイント減少した。

<進路指導>

設問 6. 学校は、進路学習（夏季集中型学力向上講習、予備校講習（3 年）等）の充実に努めている。

この項目は昨年度の設問と相違点があり、比較はできない。

設問 7. 学校は、進路説明会の実施等を通して、生徒が自分の進路について、主体的に考えられるよう指導している。

肯定的な意見は、生徒は 5 ポイント、保護者は 8 ポイント、教員は 13 ポイント減少した。

設問 8. 学校は、進路指導部だよりや各種資料の提示を通して、進路情報の提供に努めている、

肯定的な意見は、生徒は 2 ポイント、保護者は 17 ポイント、教員は 12 ポイント減少した。

<生活指導>

設問 9. 生徒は、本校の生活信条「誠実・敬愛・自主・自律」を実践している。

肯定的な意見は、生徒は 3 ポイント、保護者は 2 ポイント、教員は 1 ポイント増加した。

設問 10. 学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている。

肯定的な意見は、生徒は 6 ポイント、保護者は 2 ポイント増加、教員は 2 ポイント減少した。

設問 11. 学校は、年間 3 回の生徒アンケート実施等を通して、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。

肯定的な意見は、生徒は 2 ポイント増加、保護者は 3 ポイント減少、教員は昨年度同様である。

設問 12. 部活動は充実している。

肯定的な意見は、生徒は 1 ポイント、保護者は 8 ポイント減少、教員は 2 ポイント増加した。

設問 13. 教員や養護教諭、スクールカウンセラーによる悩み相談等、学校の相談機能は充実している。

肯定的な意見は、生徒は 4 ポイント、保護者は 6 ポイント増加、教員は 6 ポイント減少した。

設問 14. 学校は、感染症対策下であっても、必要な非常災害時の対応について指導している。→

昨年度の設問は、「学校は、宿泊防災訓練や避難訓練、普通救命講習の実施を通して、非常災害時の対応について指導している。」であり、細目については比較できない。あえて数値を比較すると

肯定的な意見は、生徒は 4 ポイント、保護者は 6 ポイント、教員は 1 ポイント減少した。

設問 15. 学校の施設・設備は充実している。

肯定的な意見は、生徒は 6 ポイント、保護者は 10 ポイント増加した。教員は 1 ポイント減少した。

設問 16. 生徒は、校内美化に努めている。

肯定的な意見は、生徒は 8 ポイント、保護者は 9 ポイント、教員は 9 ポイント増加した。

設問 17. 学校は計画的な仕事の進め方により、教職員の業務の効率化を図り、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を推進している。

肯定的な意見は、生徒は 10 ポイント、保護者は 9 ポイント、教員は 12 ポイント増加した。

<教育環境、校内美化等>

設問 18. 学校図書館（図書室）の蔵書・設備、来館者への支援と助言は充実している。

肯定的な意見は、生徒は 4 ポイント増加、保護者は 10 ポイント減少、教員は 2 ポイント増加した。

<情報公開>

設問 19. 学校は、ホームページや授業公開週間を通して、教育活動の様子を保護者や地域に積極的に公開している。

肯定的な意見は、生徒は変わらず、保護者は 2 ポイント、教員は 3 ポイント減少した。

<学校満足度>

設問 20. 生徒は、本校に入学して満足している。

肯定的な意見は、生徒は 7 ポイント、保護者は 3 ポイント、教員は 7 ポイント増加した。

設問 21 以下は、本年度新たに質問した項目である。

(4) 評価結果の分析・考察

今年度は 4 月当初より新型コロナウイルス(COVID-19)の影響による政府の非常事態宣言を起因に臨時休業、オンライン授業、分散登校、さらに体育祭や文化祭、合唱祭などの主要な学校行事の中止となり、例年とは比較が困難な面が多い。そのような中であって「学び」を存続していく状況でのアンケート結果である。

① 学習指導について

本校は東京都教育委員会から進学指導研究校に指定され、9 割以上の生徒が進学を希望する 4 年制大学入学に

必要な学力や、高大接続改革で求められる知識・技能及び思考力、判断力、表現力を育む授業を推進している。

学習指導については、教員側と生徒側の意識に大きな差がみられる。ほぼすべての教員が授業を工夫し、学力向上に努めているのに対して、それが生徒に十分に伝わっていないことが分かる。教員は、わかる授業や学力の向上を実感できる授業を推進するために、生徒の学習状況を十分に捉え、指導方法を工夫するなど授業力向上を図る必要がある。自由意見では「課題が多すぎて自主学習ができない」「課題が多くそれを終わらせることに時間がかかり、やりたいことができない」といった意見も寄せられている。生徒にとってやる気・効率ともに充実した自主学習となるよう、教科間での連携による課題量の見直しが必要と考えられる。一方、生徒自身も授業や週末課題等への取組状況、学力テストに臨む態度等に対する自己評価を行う必要がある。宿題によって学習習慣が形成される生徒が多いため、教科が工夫をしながら、自学自習を習慣づける取り組みが求められている。授業そのものは概ね静かであるが、板書されたことを書き写すだけの受け身の姿勢の生徒もいる。また、一部授業に集中できない生徒もいる。生徒の主体的な姿勢や自学自習への取組は今後、大きく期待されることである。教員と生徒が授業の目標設定に対する共通理解を図り、ともによりよい授業を創り上げていくことが今後さらに重要となる。

本校の場合は、各科目とも学力について多様化がみられ、習熟の程度が異なる。アドバンスクラスと他クラスでは、カリキュラムは同様であるが、学習の目標設定、難易度、進度の設定が異なる場合が多い。また、生徒には教科により得手、不得手があり、バランスの取れた学力形成が必要である。

臨時休業中でのオンラインでの学習は、期間が短かったせいかすべてのグループで評価が低く、今後のことも含めてオンライン学習の効果を上げる努力が望まれる。

②進路指導について

8割以上の生徒が、主体的に進路について考えることができるよう指導されていると答えている。キャリアガイダンスや面談週間をさらに充実させ、進路意識の向上につとめ、今後も生徒のニーズに沿った進路情報の提供の仕方をより工夫していくことが必要である。また、教員間では情報共有をさらに深め、個に応じた指導を深めたい。

それとともに、生徒自身が主体的な進路情報収集を行う姿勢を養うことも重要であり、その両面から進路指導について考えていくべきである。第1学年では、早い時期から進路情報に触れてほしいと願い、専用の進路コーナーや廊下の掲示を積極的に行った。1、2学年共に、「学年便り」でも進路情報に常に触れている。また、模試に関しても、事前指導や事後指導に力を入れている。

進路指導に関しては、本校では「田高進路プロジェクト」を中心に充実した進路指導を進めており、進学実績等から保護者・地域においても近年評価されていることが数値に表れている。今後も生徒・保護者への進路情報の提供についてはさらに検討していく必要がある。生徒・保護者の要望を十分把握し、分掌と学年が連携をとり具体的な資料提供を行っていく必要がある。

③生活指導について

設問10「学校は、体罰・暴言のない教育活動を行っている」について、肯定的な回答をした教員は96%であり、肯定的な回答は2ポイントのみ減少であったが、引き続き体罰のない教育活動を行いたい。

設問14「災害時事故発生時の対応の指導」については、新型コロナ対策のため、例年は年4回実施する防災訓練・避難訓練、年1回1学年の生徒を対象に実施する宿泊防災訓練において生徒が体験的に防災を意識することができる「起震車体験」や「消火訓練」「煙ハウス体験」などは密を回避し中止せざるを得なかった。

その中で防災訓練（シェイクアウト訓練）を1回、校庭へ全校生徒が集結する避難訓練を2回実施した。

設問35【部活動をしていない生徒だけが回答してください】あなたが部活動をしていない理由を記入してください。この問いに対し敢えて保護者から「部活動も楽しみに入学したが、中学生の時から経験がある生徒にしか指導をせず、意欲があっても無視し、何一つ教える事も指示を出す事もなくとても酷い思いをしました。顧問や担任に相談してもコーチには言えないと、部活を変える事しか提案されず、何の解決にもならなかった。こんな事なら、経験者しか入部出来ないと最初から伝えるべきです。」との回答意見も出ている。

④教室環境・校内美化等について

設問15「施設設備」では生徒の38%が肯定的な回答であり、昨年度と比べ肯定的な回答が6ポイント増加し

たものの、普段の学校生活の中でも経年劣化した施設の改修等についての要望が少なくない。3年生の意見として「トイレを変えた方がいいと思います。汚いって言うよりかは、タイルとかトイレ本体は老朽化？変色？してるし、蛍光灯も薄暗くて怖いです。田園調布高校が大好きですがそこだけ不満です。」とある。

設問 17 の「学校は計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を推進している」については、生徒や保護者からは自由意見で「よくわからない」という意見が多くあり、現状への理解を得ていく必要がある。肯定的な回答は、生徒は82%、保護者は77%であるのに対し、教員は32%であり、昨年度に比べて肯定的なポイントが増加したものの、依然として学校と家庭間で大きな乖離があることが認められる。日々のバランスが改善され、教員が日々研鑽に励めるようになり、生徒への授業と教育の質向上へとつながるような展開が期待される。

⑤情報公開について

昨年度と比較して保護者の肯定的意見が14ポイント減少した昨年度に対し、今年度は2ポイント減少である。新型コロナ対策で来校が難しい現在、より新しい情報を掲載するホームページの更新回数増加や、各学年「学年便り」の定期的な発行を通して、保護者等に確実に情報が届くよう更に工夫したい。

保護者からの自由意見に、「学校側から保護者への連絡の仕方が学校からの手紙だけですと なかなか子どもから親に渡りにくいので、できれば、メールなりHPなり(パスワード設定し保護者だけが見られるようにするなど) 保護者が直接見られるツールをもう少し設定してほしかったです。また zoom の保護者会も、パワーポイントを使うなり、せっかく黒板が後ろにあるのだから黒板に板書するなりしていただきたいかったです。音声も聞き取りにくく、何を言ってるか聞き取りにくいのに、口頭だけで、重要な受験に関する日程なども聞き取れませんでした。来年度はもう卒業して、在籍はしていませんが、来年度も zoom を使うなら 後輩のためにもやり方を配慮してあげてください。」と要望があった。

⑥学校満足度について

肯定的な意見は、生徒、保護者に大きな変化はなかったが、教員は7ポイント増加した。引き続き学校生活の充実に努めたい。

⑦感染症対策について

1年生から「最近、教卓におかれたアクリル板をコロナウィルス流行初期の、ビニールの様なものに変えて欲しいです。理由 ・先生方が、教材の置場所に困っていること ・バランスが不安定で、倒れて来ないか 心配になること ・アクリル板が壊れているクラスが多いこと ご検討いただければ幸いです。」の要望があった。今後緊急事態宣言が解除されても、教育の現場においては継続して感染症対策を十分に行っていく。